

のら三階節

(音頭とりの独唱)

1. 7日に識訪祭り、屋台

(踊り子の合唱)

屋台のしかけは新町3丁目のお手柄だ。

(音頭取りの独唱)

そうだよお手柄だ、屋台。

(踊り子の合唱)

屋台のしかけは新町3丁目のお手柄だ。

2. 千手から十日町、間に。

千手の大川孫左衛門渡し場が無かよかる。

3. 燈籠がよくできた、おらも。

あつらえましょうかこしらえましょうか吉五郎さ。

4. 峠の風車、人が。

いくやら来るやら、くるくるまわるのが風車

5. 金買もんを買うてもろた、さらし。

さらしの手ぬぐい、しんちゅうのかんざしをこうてもろた。

6. 21天作そろばん塾の、けたを。

1桁はずせば角川本蔵さんの城の内。

7. ちらりとホーキ星、空に。

うす雲晴れたか、さて又夜明けの流れ星。

8. 野尻の里の池、鴨が。

33が9つ、白さぎ3羽でうが7つ。

9. 良い娘だ、くにを名のれ、くには。

高田の今町、菊の江三郎さんのおとの姫。

10. ちょいと出て5両まけた、親に。

かんどういたされところにゃいられぬ残念だ、

11. でっかいこと絵にかけば、一文。

一文の紙にも2文の紙にもかき余る。

12. 逢うた夜はよけれども、朝の。

別れのつらさを互いの涙で袖しぼる。

13. 石垣玉すだれ、奥に。

お客があるやら、れんげの花ござしいてある。

14. 馬場・水沢・太田島、昼は。

琴ひく三味ひく、夜さりはお客さんの袖をひく。

15. 陣笠かぶりやるな、昔。

梶原源太がいくさにまけたるにげ姿。

16. 三角田の水口を、固く。

止めたと思えばその又あとからほれてくる。

17. のん畑で茄子もげば、もげそ。

もげそでもえないその茄子ひかげでごそうだんだ。

18. 忘れた寝忘れた、枕。

枕の下から日のさす知らずにね忘れた。

19. あねさ猫じゃとおっしゃれども、猫が。

下駄はき杖つきしぼりのゆかたでくるものか。

20. 大仏さんが江戸へ行く、道中で。

路金はずんでななこの羽織をしちにおく。

21. 明けたよ夜が明けた、寺の。

鐘つく坊主やお前のおかげで夜が明けた。

22. 高い山から谷を見れば、おまん。

おまんが可愛いや染めわけだすきで布さらす。

23. 米山さんから雲が出た、今に。

夕立がくるやらピッカラシャカラドンカラリンと音がする。